

平成17年7月25日
第16号

素流協 News

平成17年7月25日発行・発行所 岩手県素材流通協同組合 盛岡市菜園1丁目3-6/電話019(652)7227/FAX019(654)8533

国有林材「安定供給システム」の

定着化に向けて

素流協ニュースの六月号（第15号）において、素流協が国有林材の安定供給システムに契約当事者として参加したこと及びこの制度の概要についてお知らせしたところである。

その後、本事業は順調に着手されて、六月中に3森林管理署と4件の売買契約を、七月には6森林管理署と9件の売買契約を結んでいる。六月と七月の購入数量は四、八四〇m³であるが、7月末までにホクヨー・プライウッドおよび北日本プライウッドに納材した数量は二、五八〇m³で、購入数量の五三％であった。八月に入ると、国有林の安定供給システムに係る素材生産のペースが上がり、契約件数、購入数量が一気に増加することになる。八月以降、このシステム販売に係る素材を三、五〇〇m³、四、〇〇〇m³/月の規模で

安定的に前記の2工場に納材しなければならぬと考えている。一方、四月から七月の間に素流協会員から出材された数量は、月平均六、六〇〇m³であり、今後このペースで推移すると予測されることから、素流協会員からの出材量と合わせて八月以降、毎月一万m³程度の素材が二つの合板工場に供給されることになる。

先にも述べたとおり、素流協は、今年始めて合板工場へ「安定供給システム」に基づいて国有林で生産された素材を供給する制度を導入したのであるが、これまで資源の有効活用が必ずしも十分に行われていると言えなかつた森林整備等の過程で生産される小径材・短尺材や低質材等を国有林・民有林を問わず合板工場に大量に供給できる仕組みが定着しつつあると考えている。間伐作業や非皆伐施業

から生産される丸太を有効活用することによって、林業における雇用機会を増大させ、林業生産活動の活性化を促進するとともに、森林の整備が進展して森林の持つ多様な公益機能の発揮が期待できることになる。したがって、近年、

東北地方における合板工場が国産材丸太を原料とする製品開発と需要開拓の努力によって国産樹種のスギ・アカマツ・カラマツ等の使用比率を上げていることは、わが国、とりわけ東北地方の林業生産活動の活性化の起爆剤となっているわけである。東北地方における合板工場に「安定供給システム」という形で本格的に国有林材が供給されるのは初めてであるから、今後この国有林材の需給システムを軌道にのせていくためには、供給側（国有林）と需要側（合板工場）及び先の両者を結びつける流

通機能（素流協）が相互に連携を密にしてそれぞれが生きて行けるようにする必要がある。一人勝ち

や一人負けが起こることのないようにしなければならぬ。素流協としては、この事業が初年度であ

ることから事業過程において頻繁に惹起するであろう種々の問題点を改善・改良、さらには新たな視

点からの試みを鋭意進めながら、素材流通の効率化を追求していく考えである。

国産材の流通について

もの申す（その2）

高橋 早弓

3. 外材と国産材

外材は安く国産材は高い、あるいは安い外材がわが国の木材相場を狂わせた、などと長い間言われ続けてきた。ところが平成四年を境に丸太価格が逆転し、スギの丸太価格が米ツガの丸太価格を下回り現在に至っている。不思議な現象が起こったと思うと同時に、外材がここまでシェアを広げたのはただ単に価格が安いからという理由だけだったのだろうかと考えるところである。以前、業界関係者

に聞いた話だが、住宅を一〇〇棟建てる国産材は手に入るが一〇〇

〇棟建てる国産材は手に入らない、と。確かに大量生産によるスケールメリットを生かした低価格もさることながら、一定の規格・品質の木材製品を大量にかつ安定的に供給できたということが、見落としてはいけない外材依存の理由のひとつである。また、JAS規格はもちろんのこと、見ないでも日本で売れるための品質がどういうものかを北米はじめ海外の製材工場に叩き込んだ日本の商社マンの

努力の結果とも言えるだろう。さらに、価格に関して言えば、一ドル三六〇円時代から為替が変動相場制に移行し、ピーク時八〇円台までの円高基調の流れは、北米の物価上昇と現地工場の増益を吸収してもなお低価格の維持を可能にしたのである。

また、外材の低価格を支えるほかの要因として、十五年ほど前から数年前まで有効に作用しているのが、新たな生産地の出現と船運賃のコストダウンであった。北米からの木材が減少する一方で、北欧からの製品が急増しており、さらにはロシアからの製品も今後は注目すべきところで、産地間の競争作用も加わり価格競争はいっそう激しくなると考えられる。海外から日本までの輸送コストを大幅に下げたのは、木材専用運搬船からコンテナ船へのシフトであり、

小口、大口を問わずに安い運賃が利用できるようになり、同時に適量の適時輸入を可能にしたため、需給バランスの安定と相場の安定に寄与している。最近ではコンテナ船の大型化によりさらなるコストダウンが見込まれる。国産材に関しては、外材ほどのコストダウンの要因には乏しいものの、合理的かつ効率的な生産により近い将来、大量に伐期を迎えるスギのスケールメリットを生かした、さらなるコストダウンを図る一方で、

国産材というブランドイメージの育成に期待したいのである。

4. 国産材需要促進に関する提案

まず最初に考えてみたいのは、物が売れるとはどういうことだろうか。国産材が売れるということとは、国産材が欲しいという需要と

その需要者に売るための材の供給があることである。

国産材が欲しい、つまり、国産材を使った住宅に住みたい、あるいはそういう住宅を作りたいという需要を作り出す必要がある。このような需要を発生させるのは、まず第一がエンドユーザーつまり施主であり、第二は仕様書を作成する設計士であり、第三は工務店あるいは大工さんであろう。これら需要者への働きかけがなければ需要は生まれにくいわけで、需要のないところに売ることが、単に押し売りである。

国産材の良さをピールするにあたって、さまざまな切り口が考えられ、多くの人が目で見たり手で触れる公共建築物の活用、科学的見地から国産材の優位性を見出し出しているピール、あるいは環境・エネルギー問題とリンクさせて海外から木材を運ぶエネルギーの無駄使いを訴えるなど、やり方はいろいろであろう。このような国産材というブランドイメージを

作り上げると同時に忘れてならないのは、やはり価格というコスト面でのメリットを追求し続けるのは当然で、需要者が商品に魅力を感じても価格が高すぎればマーケットは受け入れないのである。

一方、供給面では、やはり需要のある製品の品質の安定と供給の安定が最重要課題であろう。さらに需要の変化を先取りした商品開発が必要であり、歩留まりのよい高度な乾燥技術による乾燥材の量産体制の整備、ならびにタイムリーに供給できるストックヤードと物流機能の整備、同時に集成材の量産と乾燥によるハネ材の有効利用を兼ねたエンジニアードウッドの開発および生産もあわせて検討することが必要である。



連載しております「ヒロシの独白」は、都合によりお休みいたします。

森林・林業 ひとくちメモ

「ウッド・マイレージ」

英国の消費者運動家であるティム・ラングは、食料の生産地から食卓までの距離に着目し、食卓がどのくらいの食糧輸送にたよっているのかを表した「フード・マイルズ」という考え方を打ち出した。これによって、できる限り地域内で生産した農作物を消費し、環境への負荷を小さくするべきであるという運動が欧州で広がりつつある。この考え方を基に、食料輸入量に我が国までの輸送距離を乗じた「フード・マイレージ」という指標が試算されている。

「フード・マイレージ」と同様の考え方で、木材の輸入量に輸送距離を乗じて求めた「ウッド・マイレージ」がウッドマイルズ研究会によって試算されている。それによると、我が国は米国の4倍、ドイツの20倍のウッド・マイレージがかかっている（藤原敬「木材情報2002.8」）。

※ 上記ウッドマイルズ研究会は、2003年6月12日（事務局、岐阜県美濃市）に設立された法人（<http://woodmiles.net/>）であります。ちなみに藤原敬氏は当研究会の代表運営委員です。素流協はこの考え方に賛同し、我が国の地域資源の活用と循環型社会構築へ寄与するため、ウッドマイルズ研究会の法人正会員になっています。

落穂拾い

▽筆者は齢六十五歳を過ぎたのであるが、最近、しきりに実感し、残念に思いながら、最後にあきらめの境地に達する(？)事柄がある。それは読書スピードが極端に遅くなったことと記憶力の著しい衰退を肌で感じるようになったことである。自分が仕事を遂行する場合にこの老齢化が事業実行にマイナスの影響を与えるようになれば問題である。ところが、自分の能力(脳力)低下と体力

の衰えを内心認めつつも、これまで積んできた経験という蓄積でまだまだ対応できるという気持ちも強いのである。そして、一方、「人間賢くなるのは昨日に對してだけである。今日と明日については永遠の迷子である」という言葉や「白髪は知恵のしるしではない(山本夏彦)」と云われてはならない(山本夏彦)と言われないと自認・納得しつつ、その経験の積み重ねイコール知識・知恵ではないと自認・納得しつつ、そのような自分の心の動きにますます気が減入ってしまうのである。最近、なんとも鬱々とした日々

の連続である。▽少し前に、国連人口局が「世界人口予測」を発表したが、それによると今後、毎年七千七百万人(一・一%)づつ増加して二〇五〇年には少なくとも七十九億人、最大で一〇九億人に世界人口が膨れ上がるとしている。この人口動態予測の内容を見ると、発展途上国の人口が二〇〇〇年の四十九億人から二〇五〇年には八十二億人になるといのである。これは世界人口のおよそ九割に当たり、とりわけアジアやアフリカでの増加が著しいということである。一

方、先進国では総じて出生率が低下する傾向で、少子高齢化が著しい日本は現在の一億二千七百万人から一四%減少して一億九百二十万人になると予測されている。この四十五年後のわが国の人口予測数値を、まだ一億人を超えているのだから心配するなど考えるのか、超老人大國で子供を生む生産力も産業・経済の生産性も極度に低下した国の姿を想像して減入するのか、あなたはどちらでしょう。いずれにしても長い期間を要する森林整備の推進にあまり力が入らない人口予測数値ではある。

平成17年6月の販売実績
(組合員からの出荷分)

ホクヨープライウッド(株)、北日本プライウッド(株)の2社に出荷した組合員からの合板用丸太の平成17年6月の販売実績は下記のとおりです。両社ともにスギの出荷量が大幅に増え、6月の北日本プライウッド(株)への出荷は、はじめて3,000m³を越えて過去最高の3,528m³となりました。ホクヨープライウッド(株)への出荷も一年ぶりに4,000m³台の4,252m³となり、2社合計では過去最高の7,780m³となりました。

項目 樹種	長級 m	径級 cm	販売先		計 m ³	累計 m ³	出荷割合	
			ホクヨー プライ ウッド(株)	北日本 プラ イ ウッド(株)			樹種 毎 %	樹種 毎 %
			m ³	m ³				
スギ	1.9	14上	1,625	1,466	3,091	7,989		58.7
	4.0	14上	1,016	1,322	2,338	5,628		41.3
	計		2,641	2,788	5,429	13,617	66.7	100.0
カラマツ	1.9	14上	905	407	1,313	4,160		94.9
	4.0	14上	33	124	158	223		5.1
	計		939	532	1,470	4,383	21.4	100.0
アカマツ	1.9	14上	656	171	827	2,216		91.5
	4.0	14上	16	37	53	205		8.5
	計		672	209	880	2,421	11.9	100.0
サワグルミ	1.9	18上			0	0	0.0	100.0
合計			4,252	3,528	7,780	20,421	100.0	100.0

平成17年6月の販売実績
(国有林材システム販売からの出荷分)

ホクヨープライウッド(株)、北日本プライウッド(株)の2社に出荷したシステム販売からの合板用丸太の平成17年6月の販売実績は下記のとおりです。

6月の下旬から徐々に素材が出始め、ホクヨープライウッド(株)へは秋田県からスギ284m³、北日本プライウッド(株)へは岩手県からアカマツ17m³、カラマツ24m³、スギ18m³、計59m³を出荷しました。

項目 樹種	長級 m	径級 cm	販売先		計 m ³	累計 m ³	出荷割合 樹種 毎
			ホクヨー プラ イ ウッド(株)	北日本 プラ イ ウッド(株)			
			m ³	m ³			
スギ	1.9	14上	284	18	302	302	88.1
カラマツ	1.9	14上	0	24	24	24	6.9
アカマツ	1.9	14上	0	17	17	17	5.0
合計			284	59	343	343	100.0